「大学間連携共同教育推進事業」中間評価結果

連携の種類	分野連携	整理番号	１０
取組名称	多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築		
連携校 ※下線は代表校	琉球大学、福岡県立大学、沖縄県立看護大学、名桜大学、国際医療福祉大学、産業医科大学、聖マリア学院大学、日本赤十字九州国際看護大学		

（総括評価）

Ｓ：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

［コメント］

本取組は、福岡県と沖縄県の 8 つの看護系大学が連携して、看護職を目指す学生に対して「しなやかな使命感」を育成する基盤的取組と、「多様な価値」を付加する先端的取組の 2 つの取組を推進することによって、就業後の早期離職を防止し、“折れず”に成長できる看護職者を養成することを目的とする。本取組の成果は多面的に活用する多くの可能性を秘めており、その波及効果が期待される注目すべき取組である。

教育改革については、連携校の特徴的な授業科目の相互履修、国際的に活躍できる就職先、災害時に活躍できる就職先、離職率の低減等の課題に対して、非常に明確な数値目標を設定しているが、その進捗状況から見て目標達成が十分期待できる。特に、連携校の科目について相互受講を可能とする措置は有意義であり、国の指定規則に準拠したタイトなカリキュラムや多忙な実習等、看護学教育特有の厳しい条件下での実施に当たり、授業のビデオオンデマンド配信に取り組むなど、困難な壁を乗り越えるための積極姿勢は高く評価できる。また、当初から確かな設計がなされており、統一授業コードの作成に代表される連携大学との協働体制の充実など、計画以上の効果を上げていることは高く評価できる。

ステークホルダーとの協働・評価については、国立国際医療研究センター、兵庫県災害医療センター、福岡及び沖縄の 2 県の看護協会等との非常に密接な連携、協働が高く評価できる。特に、ステークホルダーは本取組の意思決定機関に直接参加して、養成すべき人材像について意見を提出するなど積極的に発言し、また、教育内容や計画の原案作成・実施にも関わるなど、本取組の共同体の一員として機能している。外部評価体制も確立し、評価員の意見が取組改善に反映されている。

取組の実施体制・継続発展については、連携大学の学長、学部長等のリーダーシップの下、実施体制と役割分担が明確に定められており、確実な取組実施が期待できる。本支援期間終了後は、連携 8 大学が従来より加盟している九州沖縄地区の看護系大学のコンソーシアムに本取組を引継ぐ予定であり、本事業の継続発展が期待できる。